

熊取町議会委員会会議録

議会改革検討特別委員会

令和元年11月20日開催

熊 取 町 議 会

目 次

〔議会改革検討特別委員会〕	
議会改革検討項目について	1
今後の進め方について	2
その他	10

議会改革検討特別委員会

月 日 令和元年11月20日（水曜）招集

場 所 熊取町役場北館3階大会議室

出席委員	委員長	矢野正憲	副委員長	二見裕子
	委員	大林隆昭	委員	浦川佳浩
	委員	田中豊一	委員	鱧谷陽子
	委員	重光俊則		

欠席委員 なし

事務局 議会事務局長 藤原伸彦 書記 藤原孝二

付議審査事件

- 1) 議会改革検討項目について
- 2) 今後の進め方について
- 3) その他

委員長（矢野正憲君）皆さん、こんにちは。

本日は、令和元年9月熊取町議会定例会において設置いたしました議会改革検討特別委員会の初めての会議として、ご参集をお願いしたところでございます。

なお、本特別委員会では、理事者の出席は求めておりません。

ただいまの出席委員は7名全員であります。定足数に達しておりますので、これより議会改革検討特別委員会を開会いたします。

（「13時30分」開会）

委員長（矢野正憲君）委員の皆さんにお願いいたします。発言の際には、挙手の上、必ずマイクを使用してください。ただ、本委員会においては着座のままでお願いします。

さて、本日の会議では、本特別委員会で検討を行う項目と、今後の進め方についてご審議いただきたいと考えております。

それではまず、本特別委員会で検討を行う項目についてご審議いただきたいと思います。

検討項目について提案はございますか。

9月議会における議会運営委員会委員長の説明の中で、議員定数と報酬、そしてタブレット端末の導入が上げられておまして、プラス通年議会を検討項目としたいと思いますが、このほかに検討すべき項目等はありませんか。重光委員。

委員（重光俊則君）今の4項目、ぜひともやらないといけないと思っています。あと、議会と議会の間の活動、今までは余りまとまっていなかったんですけども、熊取町議会として通年議会になってしまえばまた違うんですけども、議会と議会の間で、前の議会で主要テーマになったものを議会としてどう取り上げていくかというようなのを検討する項目といたしますか、それは項目として議会運営委員会でやるのか、どこでやるのか、それはどこかで位置づけてやるというのが一つ欲しいなと思います。

委員長（矢野正憲君）ただいま重光委員のほうから、議会と議会の間にいろんなテーマを皆さんとともにもんだらどうだというふうなことだと思うんですが、議会BCPも勉強会というふうな形に、皆さんの了解をいただいてやっていくというふうな形になりましたので、この委員会の中で今ご提案をいただいたやつをするのかどうかは別にして、そういうふうな勉強会等であるほうが逆にいいのかなというふうに思ったりはするんですが、検討委員会の中でこれもあれもといっって盛りだくさん

になってしまうとなかなか全部が全部こなせるかというふうなこともありますので、そういった意味では別仕立てにするような考えを持っておると。準備会のときにもそういうふうなご意見をいただきましたので、議会BCP同様に勉強会みたいな形のほうにさせていただくというふうなことをちょっと考えておるんですが、皆さんいかがでございましょうか。

4つの項目をここでもんで、ほかのものは議員全員とかでするような勉強会等でもむというふうな、そういうふうなイメージを持っていただければありがたいかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。重光委員。

委員（重光俊則君）委員長が言ったように、やっぱりそういう項目については枠を余り縛らずに意見交換するという意味では、勉強会的な取り扱いからまずスタートしていいと思いますけどね。

委員長（矢野正憲君）そのように理解をしていただいて、皆さん、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

委員長（矢野正憲君）それでは、定数、報酬、タブレット端末、通年議会の4項目について検討することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

異議なしと認めます。よって、定数、報酬、タブレット端末、通年議会の4項目について検討することに決定をいたしました。

委員長（矢野正憲君）次に、今後の進め方について審議いただきたいと思います。

先ほど決まりました検討項目ごとに、進め方と一定の目標をご審議いただきたいと思います。

まず、議員定数についてはいかがでしょうか。重光委員。

委員（重光俊則君）前に議会改革検討会、仮称のね。

委員長（矢野正憲君）準備会のほう。重光委員。

委員（重光俊則君）ええ。準備会で定数と報酬について話をしましたけれども、それについて、新人議員もおられますけれども、一応それぞれの意見といいますか、これは会派でまとめるのか、会派でまとまらない場合もあるかもわからないですが、一度やはり各委員の意見をまとめてもらって発表してもらって、それをベースに、減らす、ふやすということ自体と、あるいはこういうことを問題として検討するとかいう、そういう各定数と報酬について、その2つの項目については各委員の意見を、できたら次期、次の次ぐらいまでか次までか、一応どんな意見があるかをまずは把握して、それからどういう方向に議論するのかなということになるのかなと思うんです。まずは意見を出していただいて、その考えを確認しておくことが必要かなと思いますけど。

委員長（矢野正憲君）ありがとうございます。

きょう決めさせてもらうのは、準備会の中でもお話をさせていただきましたが、定例会もあるというふうな形になっておりますので、この検討特別委員会は3カ月に1回ぐらいの割合で、年4回ぐらいの会議を開きたいなというふうに考えております。その中で議員定数とか報酬というものもこれから皆様に意見を言うていただくんですが、議長の任期が令和3年4月までというふうなことになっておりますので、この期間の中で一定の結論を出したいなというふうに考えてございます。その中で、今、重光委員のほうからご意見があったような各議員の考え方というふうなものをあらかじめこの特別委員会の中で議論する前に、そういった考えをあらかじめ知っておくというふうな形でございます。

もっともな話だと思いますので、そういった形で、またどうですかというふうな形で尋ねるといような形をさせていただいてもいいのかなというふうに思っておるんですが、皆さん、いかがですか。そういうふうな進め方がいいのか、もうここの特別委員会の中でもんで、それを皆さんにおろしていくというふうな方法等もあるんですけども。田中豊一委員。

委員（田中豊一君）重光委員の発言に賛同させていただきます。

やはり委員の皆さんがどのような考え方を持っているかということを経験共有する必要がある

ると思いますし、さらに、周辺市町村であったり府内の町村であったり、そういう状況も把握した上でどうあるべきかというところが必要かなと。

それと、今までの流れと今、委員長がおっしゃった議長の任期の間に何とか方向性を出したいという話は、やはり選挙が終わって今のうちにたたいておくということが重要かなと思いますので、そういうスケジュール等で進めていただきたいなど。

それと、前にいただいた準備会の資料の中で、これは素案なんですけれども、特別委員会を11月にするのであれば、次、3月議会は予算委員会もありますので、1月か2月の前半ぐらいに準備会というんですか、ちょっとまとめぐあいとかどういう内容とかというやつの打ち合わせもやった上で特別委員会に臨んでいただいたら、スムーズに行くのかなというふうに思いますので、その件も含めてちょっとご議論をお願いします。

委員長（矢野正憲君）ご意見をいただきました。

皆さんきょう持っておられるかどうか、持ってきてはると思いますが、項目別の行程表というふうな形で準備会の中で提示をさせていただいてございます。その中で、年が変わった1月に準備会、2月に特別委員会というふうな形に、直近でいったらそういうふうな形になってございますので、今の田中豊一委員の発言であれば、この1月の準備会ぐらいに皆さんの考え方をというような形で理解させていただいたらよろしいですか。鱧谷委員。

委員（鱧谷陽子君）議長の任期中に全て決めてしまうというのは何かどうかなと思うんですけど、まだ私たち4年の任期で活動していますので、議長の思いがそういうことであるというのは理解しませんが、やはりいろんな意見を取りまとめてやっていくには、次の議長のときにも議論し合うというふうなことも必要じゃないかなというふうに感じるんです。まだここだけでという、そういうふうなことで、早急に取りまとめるというのは、重光委員が議長をされたときにもいろいろそういう話は出ましたけれども、なかなかすすつと決まる話ではありませんので、やはり十分な議論の上で決めていっていただきたいというふうに思います。

委員長（矢野正憲君）この特別委員会の中では十分に議論を尽くしてさせていただいて、先ほど私が言ったのは、来年、令和3年4月にまた新しい議長とかわりますので、その間で一定のめどがつくのであればそういうふうな形になればいいでしょうし、もう少し議論が要するというのであれば延ばしてもいいというふうに思っております。ある一定やはりめどがつくのは令和3年4月、あと残り1年半でありますけれども、3カ月、3カ月の特別委員会、それから準備委員会をやりますので、その中で一定の結論というか、考え方というのは出てくるのかなというふうに思っております。その中で早急にするというふうなことではなくて、議論を尽くさせていただくと、そういった形で進めていきたいなというふうに思っております。よろしくお願いをしたいと思います。

あと何か意見等あれば承りますが、よろしいですか。鱧谷委員。

委員（鱧谷陽子君）尽くされたというところ辺が、どれだけみんなの納得がきちっと得られるかというのは非常に難しいところがあるかと思うんですよ。

だから、その辺はここでというふうなきちとしたものになって、そういうふうにしてしまえばそれで終わってしまうかもしれませんが、やはり誰もがちゃんとした思いを持って4年間やっていこうとするときに、余りにも早急にされると困るなという思いがあります。その辺も酌んでいただけたらありがたいと思います。

委員長（矢野正憲君）議員定数の問題、報酬の問題というのはいろんな意見があって、定数削減をするのか現状維持なのかというのは意見の分かれるところだと思います。これは特別委員会ですから、最終的には本会議のほうで報告して決をとるような形にもなるのかな、議員の14名入れてのそういうふうな決をとるような形になろうかと思っておりますので、この特別委員会で、する、しないというのは最終的に決をとりますが、それがそのまますすっていくのかといたら、ちょっとその辺もわからないところがあります。不確定要素がありますので、そういった意味では、この特別委員会の中で

じっくりと腰を据えながら議論はしていきたいなというふうに思っております。次の第2回目をやったから、それでもう早急に決をとってというふうな、そういうふうな考えではないというようなことは皆様にお伝えしておこうと思っております。重光委員。

委員（重光俊則君）それで、いろんな意見が出てそれをどうするのかということと、定数と報酬についてどういう根拠を持って熊取町がそういう方向にいくかという、ここの会の結論といいますか、議員の考えの結論をつくり上げるのは結構大変なことだと思うんですね。そう簡単にいくことではないんで、その辺を十分に時間かけて審議していくという方向であれば、今の次の議長までにとということではなくて、方向性としてはそこが一つの区切りになるでしょうけれども、じっくりと煮詰めて町民に結論を提示できるような状態にすべきかなということがあります。

特別委員会というのは少人数の枠組みのあれですから、これをやっぱりきっちりとした意見にまとめるにはどういう手順が要るかというようなことも検討していく必要もあると思いますので、その辺を含めてじっくりとやっていく必要があるかなと思います。

委員長（矢野正憲君）いずれにしても、皆さんの頭の中には腰を据えてやろうというふうな考えがあるかと思いますが、そういった方向性でやっていきますが、ただ、一定の結論が出ないときであるとか、そういったときには決をとるというようなことも考えております。最終的には本会議でどうなるのかというふうなことがあろうかと思いますが、その辺はちょっと皆様にも知っておいていただきたいなというふうなことを考えております。

先ほど言いましたのは一定のめどというふうな形で考えておりますので、その中で、間に合わなかったらひょっとしたら次の新しい議長のほうに引き継ぎ事項としてお願いをするようなことも出てくるかもしれませんが、ある程度、1年半かけてさせていただきますので、その辺で結論が出る、決をとらなければいけないというような状況ぐらいには、皆様とともにやっていきたいなというふうに考えております。よろしくお願ひします。

浦川委員とか大林委員とか、まだ議員定数だけではなくて報酬のこともあるんですけども、そういった進め方でよろしいですか。少し腰を据えながらさせていただくというふうな形でよろしいでしょうか。はい。

次に、報酬についてでございます。

報酬についても、定数と同様に年4回程度の会議を開かせていただきまして、令和3年4月中に一定の結論を出したいなというふうな考えを持っておりますが、この辺についてはいかがでしょうか。先ほどと同じような、じっくり腰を据えてというふうな話になろうかと思うんですが。重光委員。

委員（重光俊則君）定数と報酬ですけれども、これはそれぞれ独立した項目とも思いますけれども、連携のある項目であると思われるので、その辺は両方やっぱり同じようなペースでいったほうがいいのかと思いますね。

委員長（矢野正憲君）いずれにしましても、こちらもいろいろと意見が出てくる可能性のあるテーマでありますので、この辺についてもじっくりと腰を据えてやっていくというふうな形でよろしいですか。二見副委員長。

委員（二見裕子君）すみません。先ほど意見として、それぞれ会派であるとかの意見を出してもらってまとめるということになっていたんですが、その意見の出し方というのをどのような形で出していくのか。議員総会の中で皆さんおそろいの中でそれぞれの意見を言っていたのか、また、それぞれの会派で持ち帰ってもらってアンケート的に意見を出していただくのかということも進め方として少し決めておいたほうがいいのかと思うんですけども、その辺はいかがですか。

委員長（矢野正憲君）副委員長のほうから今提案がありました。議員定数ですね、特に。報酬もリンクしておりますけれども、重光委員のほうからあらかじめ皆さんの考え方を知っておくべきやろうというふうな中で、皆さんの意見を引き出す方法についてのやり方はどうですかというふうな話を今いただいているんですが、これについてはどうさせていただいたらよろしいでしょうか。アンケ

ートでとるのか議員総会とするのか。重光委員。

委員（重光俊則君）私見ですけども、それぞれ考え方が議員によってあると思うんですよ。会派だけでまとまるものかどうかというのがありますので、やはり私は、まずは一人一人の意見を要約した形のを、議員定数についてはこう、それから報酬についてはこの程度というそれぞれの考え方があると思うんで、まずはそういう意見を会派、輕易にでも集めていただいて、それを集約して、この会の中でこういう意見が出ましたよという確認をするというやり方で、まずはいいのかなという気がしますけどね。

委員長（矢野正憲君）浦川委員。

委員（浦川佳浩君）重光委員と同じなんですけれど、やっぱりそれぞれの議員で、幾ら同じ会派だといっても考え方が同じとは限らないと思いますので、それぞれの議員の考え方を集約していったという、それでお互い、ほかの議員の考え方であったりとかということ認識するというほうがいいかなと思います。それがここなのか議員総会なのかは、またちょっと別としてですね。

委員長（矢野正憲君）そしたら、会派で考え方をまとめてくださいというふうなことよりも、それぞれ皆さんの意見を自由に、それはどうしますかね。アンケートとか、こういった考えを持っていますというような形で文字で残してもらおうのか、それとももう議員総会、皆さんが集まっていたときに、どんなんですかと個別に聞いていったほうがいいのか、それを持ち寄ってここであれば、ひょっとしたらペーパーとかに書いてもらったほうがいいのかもしれないけどね。重光委員。

委員（重光俊則君）定数、報酬について、それぞれのテーマについてこういう考え方です、人数がはっきり出せる人、あるいは増減を出せる人、あるいは賛成・反対というような書き方もあるでしょうから、そういうのを書く欄とそれぞれの個別の思いを書ける欄を事務局でつくっていただいて、まずはその中に書ける範囲内で集めていただくと。そのほうが効率的かなと思いますね。

あと、それを皆読んでどう考えていくかということをしたらどうでしょうか。事務局のほうでそういう様式を、その2つについてはつくっていただいたらどうでしょうかね。

委員長（矢野正憲君）皆さん、今のご意見について何かあれば承りますが。

（「なし」の声あり）

委員長（矢野正憲君）そしたら、議員それぞれに議員定数と報酬のことについての考え方を尋ねるといふふうなときに、紙ベースでというふうな形で皆さん、よろしいですか。

（「はい」の声あり）

委員長（矢野正憲君）よろしいですね。

そして、尋ねる様式というのは、また事務局のほうから作成をしていただいて、皆様にご提示をさせていただきます。ご提示をさせてもらう中で、これをつけ加えたほうがいいんじゃないかというふうなことがあればまた皆様からご意見をいただいて、それでオーケーになれば皆様に配付をさせていただきます。考え方を書いていただくというような方式でよろしいですか。

（「はい」の声あり）

委員長（矢野正憲君）わかりました。では、そのようにさせていただきます。

次に、タブレット端末についてはいかがでしょうか。大林委員。

委員（大林隆昭君）タブレット端末については、ペーパーレス化を図るためにというのはあるんですが、議会だけとするのか、それとも理事者側も含めてやってしまうのかということもあるんで、そのあたりはしっかり考えて、後で追加で追加でということにならないようにしっかり考えたほうがいいかなと思います。

委員長（矢野正憲君）いいご意見ありがとうございます。

ほかに。二見副委員長。

委員（二見裕子君）今、先進的に導入されている地域もあるかなと思いますので、まずはそこに視察を行かせていただいて、先ほど大林委員が言われていたように、議会だけでやられているのか、理事

者側も一緒になってやられているのかというところも踏まえて、コスト的なものとかもしっかりと議会としても勉強させていただくというふうなのではいかがでしょうか。

委員長（矢野正憲君）先進事例をちょっと皆さんと一緒にいったらどうだというふうなご意見だと思います。あと、理事者との関係も詰めないといけないじゃないですかというふうなご意見でありました。

ほかに何かご意見等があれば承りますが。

（「なし」の声あり）

委員長（矢野正憲君）それでは、ちょっと私のほうから考え方を述べさせていただきますが、先ほどご意見もありましたように、既に導入している先進自治体がございます。ここに視察に行くと。視察終了後にこういう特別委員会、準備委員会を開いて令和3年度予算の編成までというふうな運びを考えておるんですが、そうすると来年の9月中には理事者との協議もしなければいけないというふうな形になりますので、来年の9月中に理事者との協議も含めて結論を出したいなというふうに考えておるんですが、いかがでしょうか。こういったスケジュールになると思うんですけども。

これも当然、視察に行くのがおくれたりというふうな形になると、このスケジュール自体がおくれていくんですけども、令和3年度からタブレット等を導入するのであれば、遅くとも来年の9月ぐらいまでには理事者も含めて議論をしなければいけないだろうと、結論を出さないといけないだろうというふうなことを考えておりますが、こういった形で進めさせていただいてよろしいですか。

（「はい」の声あり）

委員長（矢野正憲君）鱧谷委員もよろしいですか。

そしたら、そのようにさせていただきます。よろしくをお願いします。

次に、先ほど出ました先進地の視察先、それから時期というふうなことになるんですが、タブレット端末というふうなことになるれば、この近隣でも導入をしておる自治体がございます。具体的に言いますと泉大津市であったり泉南市であったり、泉佐野市がちょうどまさに入れようかというような状況になってございます。先進地はこの3つぐらいに全部行くのか、一番早く入れているのが泉大津市と泉南市が入れていますので、この2つぐらいに絞るのかというふうな形になるんですが、とりあえずはそういう先進地に行くというふうな形で進めさせていただいてもよろしいですか。重光委員。

委員（重光俊則君）そうですね。これはできるだけ早く、先進地、1つじゃなくて3つぐらいは行って勉強するというのが必要だと思います。これはテーマが決まっているので、金もある程度決まってくるので、できるだけ早くその方向性を決めないかなという気がしますね。

委員長（矢野正憲君）先進地、先ほど3つぐらい出しましたが、あと時期については、この辺はもう一任していただければ、例えばもう皆様に2つ、3つぐらい時期を提示させていただいて、その中で決めさせていただくというふうな形をとったほうが、よりスムーズになるのかなというふうに思っておるんですが、いかがでしょうか。もう委員長一任というふうな形でよろしいですか。

（「はい」の声あり）

委員長（矢野正憲君）そしたら、タブレット端末についてはそのようにさせていただきます。鱧谷委員。

委員（鱧谷陽子君）見学に行かせていただくのはいいと思うんですけど、議員全員で行かせてもらうほうが我々だけよりもいいような気がするんですが、その辺についてはどうなのでしょう。

委員長（矢野正憲君）14名全員で視察に行ったらどうだというふうなお話を今いただいてございます。

今議論させてもらっているのは、検討特別委員会というふうな形で、基本この7名で行くというふうな形にさせていただいて、それにプラス行きたい方を募るというふうな形にしておかないと、まずはこの7名で行く日時、これを設定しないと、14名の都合のいい日といたらなかなか決まらないのかなというふうな想像がつかますもので、優先的はこの特別委員会の7名の皆様で、あと、この7名じゃないとあかんということではなくて、日にちが決まったら、参加されたいというふう

な希望される議員がおられれば、そこにまたプラスでというふうな感じを考慮しておるんですが、なかなか14名全員というのは厳しいと思うんですけどね。重光委員。

委員（重光俊則君）やっぱり14名全員で行くことでもない。ことでもないというのはおかしいですけども、いろんな情報をもう既に入れている人もいるし、見学した人もいますよね。そういうのを含めて、まず、ベースはこの7人で、あと、その結果を持ち帰って皆さんにわかってもらうぐらいでいけるテーマやと私は思うんですけどね。どうしても見たいというのがあれば、ついて来てもらうことも考えなあかん。やっぱり14人が押し寄せる、視察に行くというのは向こうも大変だと思います。

委員長（矢野正憲君）確かにそうやと思います。重光委員。

委員（重光俊則君）だからその辺は、この委員が各会派から出ていますので、その辺で、別の人が視察に行くというのもあり得るでしょうから、そういうのを含めて、まずはこの委員7人がベースで視察に行くということでいいんじゃないでしょうか。

委員長（矢野正憲君）というふうな今ご意見をいただいておりますが、皆さん、いかがですか。浦川委員。

委員（浦川佳浩君）基本的に、委員長、それから重光委員の意見に賛成します。

やっぱり委員会として組んでいる以上、まずは委員会が優先で、その中で決まった日程について、ほかに行かれる方は一緒に行くというような形で問題ないかなというふうに思います。

委員長（矢野正憲君）それでは、そのようにさせていただいてよろしいですか。

（「はい」の声あり）

委員長（矢野正憲君）異議なしですか。

（「異議なし」の声あり）

異議なしと認めます。

次に、通年議会についてなんですが、いかがいたしましょうか。重光委員。

委員（重光俊則君）通年議会をやっている自治体とやっていない自治体というので、事務局のほうできょうまとめていただきましたよね。非常にたくさん書いてあるので、あれを全部読んで理解するのも大変なんですけれども、あれを例えば通年議会をやっているところでA、B、Cぐらいで、事務局で仕分けしてもらうような、ちょっとあれですかね。

通年議会としてこれは進んでいるよという自治体と、ここはやっているけれど余り大したことないよというようなものというようなのが、もしそういうのがわかれば、これ、全部自分で理解してどの位置かというのはちょっと難しいかなと思うんです。ちょっと事務局、大変かもわからないんですけども、その辺の情報整理ができれば、典型的なやり方をやっているところと、それが成功しているようなところと、ここは失敗しているというようなところもあるようなので、その辺をちょっとまとめて、それを勉強させてもらってからのほうが私の場合はいいような気が……。

委員長（矢野正憲君）浦川委員。

委員（浦川佳浩君）通年議会の考え方は、改選後すぐに議長の選挙でそれぞれ出てきたかなというふうと思うんですけども、僕自身としても、通年議会の必要性であったりとか、実際に導入している自治体というのがまだ少ない中で熊取町もこれからちょっと検討していくということなんです。そもそも通年議会の必要性であったりとか、それぞれ今、重光委員がおっしゃったみたいに、導入したものの実はちょっと余りというところもやっぱりあるということもありますので、私個人としては、ここの項目に上がってもいいのかなと思うんですけども、考え方としては、BCPのようにまずちょっと一定勉強会みたいな形を開いていただいた後、議論にのせていくというのが、僕自身の個人的な感想なんですけれども、という考え方なんです。

なので、通年議会ありきで進めていくというと、いずれにしてもジャッジはしないといけなと思うんですけども、まず何か事前勉強会みたいな形の中で、よりわかった上でさらに視察に行くということも重要であると思いますし、なので、ほかの項目と一段下げて、事前に勉強した後に視

察に行くというほうが、より効果があるのかなというふうに思っています。

委員長（矢野正憲君）浦川委員のご意見でございます。

ほかに何かあれば。田中豊一委員。

委員（田中豊一君）通年議会で、私は導入に対して前向きなんですけれども、それは、やはり最近の天候とかの災害の多い中で、議会案件になる契約案件で災害の絡みがあって、その部分だけでも通年議会という制度の中で早く契約が結べるようにするべきかなと。

昨年度でも、私は議会にはおりませんでしたけれども、2カ所ほどそういう案件があったということも聞いていますし、やり方もいろいろあるということで、夕方からやっているところもあるということで、鯉谷委員や江川議員が行かれた研修のときでもそういうようなことが出ていたということもあるので、こういう議会案件を各定例議会まで待つということであれば、やはり通年議会の制度を導入して、住民の利益になることですので、やるべきかなということで考えています。

慎重にいくのもいいんですけれども、全ての先進事例をクリアするという必要はなくて、まずはそういう部分だけでも導入するような議論を一度していただきたいなと考えています。

委員長（矢野正憲君）大林委員。

委員（大林隆昭君）僕も通年議会については、もちろん勉強会をやるのはいいと思うんですけれど、とりあえず長くやっているところと最近始まったところだけ一度視察に行つて、その話を聞いた上で、じゃ熊取町はどうでしょうかという話をするほうが前に進むかなと思うんです。

委員長（矢野正憲君）二見副委員長。

委員（二見裕子君）私も大林委員と同じで、先進でやられているところをまずは勉強させていただくというところで、メリットという言い方はどうなのかと思うんですけれど、メリット、デメリット的なことがあるのかというのわかるかなと思いますので、それを見てから、熊取町としてできる通年議会というのを考えていけばいいのかなというふうに思っております。

委員長（矢野正憲君）きょうはテーマ決めなのでそんなに深掘りはできないところがあるんですけれども、私なりにいろいろ調べておりますと、長崎県とかが通年議会を始めて、長崎県が初めてやり出したんです。通年議会やめているというような事例も実はあつたりするんです。

そういったことであれば、大林委員であるとか副委員長のほうから、浦川委員も踏まえて皆さんご意見いただきましたけれども、これを見たら、平成25年、26年からやっているところが何カ所ありまして、もう既に通年議会をやって5年とかというふうなケースになっておりますので、そういったところに行かせていただいて、現状どうなんですか、どういったことを通年議会の議題として含めるんですかというふうなことをまずは知っておく。例えば、導入年度で4、5年たったところで、これは入れているがゆえにちょっとしんどいなというふうな話等もお聞かせをいただいた中でメリット、デメリットというふうな話になろうかと思いますが、そういったことをまず頭の中に入れておいて、勉強会するにしても準備会でするにしても特別委員会でするにしても、そっちのほうがいいのかなというふうに個人的には思っております。通年議会を入れたからといって、年にばんばん通年議会になるかというふうなことでもないのかなというふうに思ったりはしております。

その中で僕自身は、大阪府下で8つの団体がもう通年議会をやっていますので、だから、比較的早い段階で通年議会を導入された議会と、それから、平成29年とかでやっているところが一番新しいんですが、交通の利便性も考えて、例えば同じような年数であれば行きやすいところに行ったらどうかというのちょっと思ったりしておるんです。全部が全部行くというわけにもなかなかないと思いますので、いろいろとアドバイスで、島本町なんかどうだというふうなお話等も折に触れて出たりしますので、ちょうど島本町も早い段階のほうで導入しておりますので、そういったところが一つ視察先になるのかなと思っております。

8つとも全て行くというのはなかなか時間の問題もあろうかなというふうに思いますので、先ほどおっしゃっていただいた比較的年数のたっているところと新しいところぐらい、1つ、2つはどうかかなというふうに思っております。その中で交通の便のいいところ、こんなこと言うた

ら怒られますけれども、そのほうがよりいいのかなというようなことはちょっと思っております。
重光委員。

委員（重光俊則君）いろんな自治体活動の中で、島本町はやっぱり気になる町ですね。

委員長（矢野正憲君）議員定数や報酬についても、重光委員。

委員（重光俊則君）はい。やっぱりそこを1回まずは視察に行くと。どんな状況か聞いて調べるのと同じ時に、あと、その他のところでどういう状況としてまとめたらええのかというようなところをちょっと事務局のほうで簡単なまとめをしていただいて、まず、議長の言うように、島本町は行きやすいし、内容的にも行ってみたいところでもあるので、その辺はいいのかなという気持ちです。

委員長（矢野正憲君）そういった形で、浦川委員、進めさせていただいて……。浦川委員。

委員（浦川佳浩君）委員長おっしゃるように、8カ所全部というのはさすがにと私も思います。

非常に、今8つの自治体の中でも前向きに進めているところとちょっと問題を抱えながらやっているところがあって、そのいいところと、もう一方の導入したはいいけれどもというところを1カ所ずつ見て、比較検討するというのが割といいのかなと私、個人的には思います。

委員長（矢野正憲君）メリットが出ているところとデメリットが多いところというような感じですね、イメージで言うたらね。その辺は、先ほど重光委員がおっしゃっているような事務局サイドでというような話になっておりますが、そしたら、それも委員長一任というような形にとらないといけないのかなと思ったりするんです。当然、事務局と密にしながら話はやっていくんですけども、そういうふうなイメージでよろしいですか。

視察を行って、視察の終了後に準備会であったりとかこういう会議を開くというふうな形でよろしいですか。

これも実は理事者との協議が要るようなことになってまいりますので、これ、比較的早くできるかなというふうな思いも持っておりましたので、来年度中ぐらい、令和2年中ぐらいに結論を出したいなというふうに考えておるんですが、この辺はいかがでしょうか。一番早いのが、この4つと言うたら通年議会が一番早くなることかな、予算を講じないといけないというようなことでもないので、条例改正とかも要るわけですけども。来年度ぐらいをめぐりにというふうに考えておるんですが、いかがでしょうか。鱧谷委員。

委員（鱧谷陽子君）来年度ぐらいに導入するか導入しないかを決めるということですよ。

委員長（矢野正憲君）そうです。

委員（鱧谷陽子君）何かもう、町との話し合いとかといたら導入を決めるような感じで聞こえてしまったので。

委員長（矢野正憲君）当然、理事者との話の協議をするということになっても、ここの中でやはり皆さんでコンセンサスをとって、それをもって全ての議員とかと話をしながら、それをまた理事者ともというような形になるのかなと思っておるんですが、それをだから来年、令和2年の中ぐらいに通年議会というのはある程度結果は出るのかなというふうに考えておるんです。

そういった形で進めさせていただいてよろしいですか。

（「はい」の声あり）

委員長（矢野正憲君）浦川委員、よろしいですか。鱧谷委員もよろしいですか。

（「はい」の声あり）

委員長（矢野正憲君）そしたら、先進地の先というのは、メリットが出ているところとデメリットがあるところ、あとは5年ぐらい、入れて5年とか最新のやつとかというのはありますけれども、その辺についても、時期についてもまた委員長一任ではありませんが、そういった形でよろしいですか、一任していただいて。

（「はい」の声あり）

委員長（矢野正憲君）わかりました。

以上で、本日の案件が終了いたしました。

その他、何かご報告等があれば承ります。

(「なし」の声あり)

ないようですので、以上で議会改革検討特別委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

(「14時17分」閉会)

以上の委員会の次第は議会事務局長の記載したものであるが、その内容が正確であることを証するため、ここに署名する。

議会改革検討特別委員会委員長

矢野正憲